

第11次

しが職業能力開発推進プランの 実施状況および総括の方向性について

計画期間(令和4年度～令和7年度実績)の 目標の達成状況

- ・PDCAサイクルにより、しが職業能力開発推進プランの実施状況の評価・検証を行い、フォローアップを行うこととしている。
- ・計画期間に実施の64事業のうち、事業の数値目標を掲げる14事業についてA～Dの4段階で評価を行う。

AまたはB評価が全体の **85.8%**

	評価区分					計
	A [予定していた内容を 上回る:100%以上]	B [ほぼ予定通り:75%～ 100%未満]	C [予定していた内容を 下回る: 50%～75% 未満]	D [予定していた内容を 大きく下回る:50% 未満]	評価なし	
基本目標Ⅰ しがの産業の将来を支える人材の育成 (在学生・若者対象)	2	2	0	0	0	4
基本目標Ⅱ しがの産業の今をけん引する人材の育成 (在職者対象)	1	2	1	0	0	4
基本目標Ⅲ 誰もが働き、活躍できる社会の 実現に向けた多様な人材の活躍促進 (求職者等対象)	2	3	0	0	1	6
計 (割合)	5 (35.8%)	7 (50%)	1 (7.1%)	0 (0%)	1 (7.1%)	14

基本目標Ⅰの主な取組 実施状況・評価

基本目標Ⅰ：しごの産業の将来を支える人材の育成（在学者・若者対象）

定量的な評価

番号	項目	具体的な取組	実施計画	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 実績	評価
1	若年技能者の育成に向けた職業訓練の実施（施設内訓練）	○高等学校卒業者を対象とした職業訓練の充実（メカトロニクス科【定員10名】、自動車整備科【定員20名】）	○高等学校卒業者を対象とした職業訓練 （入校率：60%以上） 就職率：100%以上	（入校率：53.3%） 就職率：100% （定員30名）	（入校率：73.3%） 就職率：100% （定員30名）	（入校率：53.3%） 就職率：100% （定員30名）	（入校率：40%） 就職率：100% （定員30名）	A
2	しごと・ものづくり体験の機会提供	○県立高等技術専門校におけるものづくり体験教室の実施 ○しごとチャレンジフェスタ等の実施	○ものづくり体験教室 高等技術専門校にて実施：300名以上 （総定員の8割以上） ○しごとチャレンジフェスタ：600名以上 ○ものづくり（テクノカレッジ）魅力発信事業：900名以上（現地開催）、 2,500アクセス以上（動画配信）	○ものづくり体験教室 42名 ○しごとチャレンジフェスタ 749名	○ものづくり体験教室 340名 ○ものづくり魅力発信事業 422名	○ものづくり体験教室 279名 ○ものづくり魅力発信事業 1,065アクセス	○ものづくり体験教室 179名 ○ものづくり魅力発信事業 66,868アクセス	A
3	学校教育におけるキャリア教育の推進	○高校3年間の間に1回以上、インターンシップ・職場体験に取り組む	○高校3年間の間に1回以上、インターンシップ・職場体験に取り組む生徒の割合：50%	32.3%	32.3%	43%	42%	B
4	「しがジョブパーク」における就労支援	○就活支援コーナーにおける就職相談やキャリアプランの作成支援等	○しがジョブパークキャリアカウンセリングコーナー利用者数：2,640名	1,881名	2,515名	1,661名	1,831名	B

基本目標Ⅱの主な取組 実施状況・評価

基本目標Ⅱ：しがの産業の今をけん引する人材の育成（在職者対象）

定量的な評価

番号	項目	具体的な取組	実施計画	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 実績	評価
5	在職者訓練(技能向上セミナー)の実施	○在職者訓練の実施 (機械系、溶接系、電気電子系、制御系、塗装系、電子・情報系)	○在職者訓練 受講者数:1,200名	779名 (定員957名)	918名 (定員1,115名)	1,073名 (定員1,291名)	815名 (定員1,074名)	C
6			○在職者訓練 充足率:80%	81.4%	82.3%	83.1%	75.9%	B
7	技能検定の実施	○技能検定の実施	○技能検定申請者数:前期・後期の合計2,100名以上	前期963名、 後期1,068名	前期1,074名、 後期1,044名	前期862名、 後期996名	前期936名、 後期921名	B
8	多様な人材の活躍促進に向けた働き方改革の推進	○滋賀県ワーク・ライフ・バランス推進企業の登録促進	○新規登録企業数(従業員100人以下の企業):50社/年	26社/年	33社/年	184社/年	132社/年	A

基本目標Ⅲの主な取組 実施状況・評価

基本目標Ⅲ：誰もが働き、活躍できる社会の実現に向けた多様な人材の活躍促進(求職者等対象)

定量的な評価

番号	項目	具体的な取組	実施計画	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 実績	評価
9	早期の安定就労に向けた職業訓練の実施	○【施設内訓練】求職者を対象とした職業訓練の実施 (障害者訓練以外)	(入校率:60%) 就職率:85%	(入校率:57.9%) 就職率:76.2% (定員195名)	(入校率:62.6%) 就職率:83.3% (定員195名)	(入校率:52.3%) 就職率:80% (定員195名)	(入校率:62.9%) 就職率:78.2% (定員140名)	B
10		○【施設内訓練】求職者を対象とした職業訓練の実施 (障害者訓練)	(入校率:60%) 就職率:85%	(入校率:25%) 就職率:100% (定員20名)	(入校率:20%) 就職率:100% (定員20名)	(入校率:10%) 就職率:100% (定員20名)	(入校率:20%) 就職率:75% (定員20名)	B
11		○【委託訓練】求職者を対象とした職業訓練の実施 (障害者訓練および定住外国人向け訓練以外)	就職率:80%	就職率:72.3% (定員1,119名、 入校者866名)	就職率:66.3% (定員956名、 入校者707名)	就職率:65.9% (定員960名、 入校者663名)	就職率:68.4% (定員1,008名、 入校者674名)	B
12		○【委託訓練】求職者を対象とした職業訓練の実施 (障害者訓練)	就職率:80%	就職率:77.8% (受講者12名)	就職率:54.6% (受講者12名)	就職率:100% (受講者11名)	就職率:85.7% (受講者10名)	A
13	日本語能力に配慮した職業訓練の実施	○定住外国人向け職業訓練の実施	○定住外国人を対象とした委託訓練の3コース実施 就職率:80%以上	就職率:69.2% (2訓練科、 定員30名、 入校者16名)	就職率:61.5% (3訓練科、 定員45名、 入校者29名)	就職率:92.9% (2訓練科、 定員30名、 入校者15名)	就職率:100% (2訓練科、 定員30名、 入校者10名)	A

その他の取組 定性的な評価

基本目標Ⅰ：在学者・若者対象

- 優秀な若年技能者を「おうみ若者マイスター」に認定することで、若年技能者のさらなる技能習得の意欲向上につなげた。
- 特に優れた現役の技能者を「おうみの名工」として表彰することで、技能者の地位や技能水準の向上につなげた。

基本目標Ⅱ：在職者対象

- 県内大学におけるリカレント教育の情報収集や連携を行うことで、在職者の職業能力開発の促進につなげた。

基本目標Ⅲ：求職者等対象

- 滋賀県障害者技能競技大会を開催することで、障害者の技能向上を図るとともに、県内企業に対して、障害者雇用への理解を深め、雇用促進につなげた。
- ひきこもりに関する理解を広げるための地域啓発活動等を実施することで、ひきこもりの状態にある人やその家族が身近な地域で安心して相談できるような体制の充実につなげた。

基本目標ⅠⅡⅢ 共通

- 県立高等技術専門校のあり方に関して関係機関・団体と連携し、研究を進めることで、訓練科の再編につなげた。

(参考)県内の労働分野に係る定量的な動き

○滋賀県中小企業数

	H28	変化	R3
企業数(中小企業)	34,608	↘	32,195
従業員数	284,781	➡	286,326

【出典】中小企業白書2026年版(中小企業庁)

○雇用情勢等

	R3	変化	R7
有効求人倍率(※)	0.97	➡	1.09
完全失業率(%)	2.3	➡	2.3
県内賃上げ状況(%)	1.83	➡	4.36
県内倒産件数	52	➡	120

(※)各年の12月の数値

○労働に関するデータ

	R3	変化	R7
高等学校卒業者数	12,129	↘	11,363
障害者法定雇用率(%)	2.33	➡	2.67
法定雇用率達成企業割合(%)	54.0	➡	54.3
新規求職申込件数(一般)(※)	2,134	➡	2,180
女性(25歳～44歳)の就業率(%)		(R2) 76.9	
外国人労働者数	20,881	➡	25,667
外国人雇用事業所数	2,450	➡	2,773

(※)各年の12月の数値

(参考)県内の労働分野に係る定性的な動き(R4～現在)

<機会>

- 働き方に対する人々の意識や働き方そのものの変化(テレワークや副業・兼業など)
- 多様な人材の能力を最大限にいかすダイバーシティ経営の重要性の高まり
- グローバル需要の拡大、グローバルサウスの台頭、インバウンドの増加
- AI等の技術革新

<脅威>

- 不安定な国際情勢
- 賃上げを上回る物価高騰
- 社会や地域を支える、担い手の不足が年々深刻化
- 後継者不足による事業承継の課題がさらに顕在化
- AI等の技術革新

全体的な総括の方向性

総括

- 数値目標を掲げる事業では、AまたはB評価が全体の約9割と、概ね目標を達成することができた。
 - またそれ以外の事業においても、若年層・在職者・求職者等の様々な層に対し、必要な取組を実施することができた。
- ➡ 本プランが本県の職業能力開発施策の促進に一定寄与したと考えられる。

今後の課題・展望

- 人口減少・少子高齢化により、労働供給制約社会に直面し、幅広い業種において構造的な人材不足が顕在化。また、A I 等の技術革新が進んでいることから、社会情勢の変化に対応した訓練の充実が必要。
- ものづくりの魅力発信をはじめ、技能振興・技能尊重の取組が進展。引き続き、ものづくりに親しむ社会の形成に向けた取組が必要。